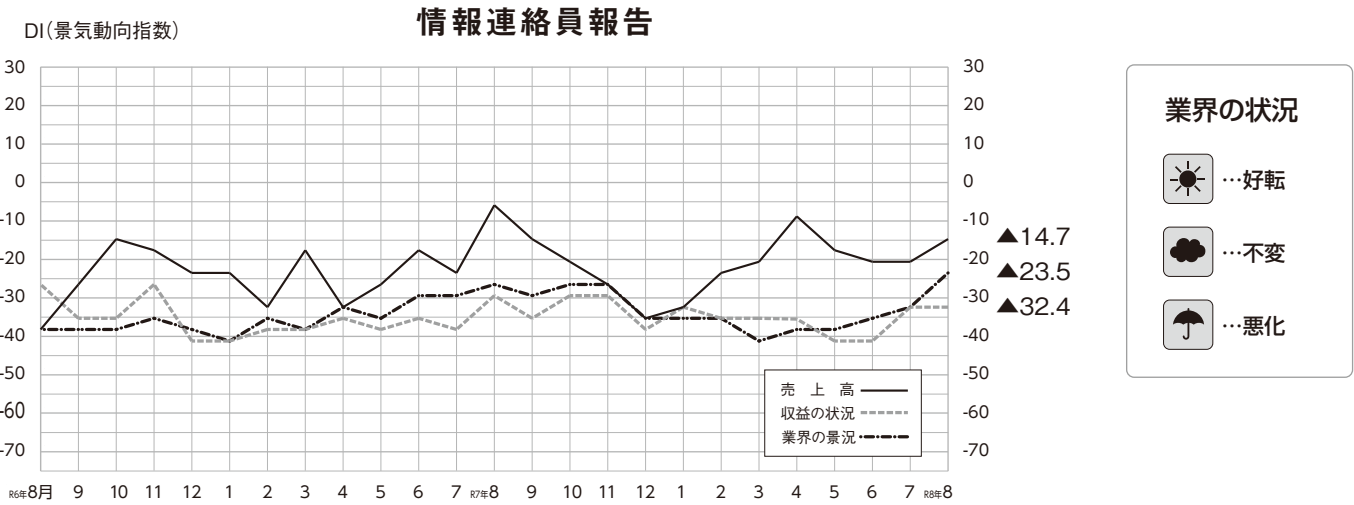




	食品団地	お盆やよさこいなどの夏季需要などが後押しして、受注や売上が増加した事業者も多くあり、景況全体としては、「やや好転」といったところ。ただし、中東情勢や物価高騰などの懸念材料に加えて、最低賃金の引き上げへの対応を迫られており、今後の見通しは不透明である。
	電気機械器具小売	全商品平均で前年比103%、スタンダードブランドエアコン前年比108%、4K8Kテレビ前年比98.6%、ドラム式洗濯機前年比102%、リフォーム全般で前年比101%であった。

	酒類製造	原料米については、主食用米の価格下落の影響が今後、酒米の生産・供給にどういった影響を及ぼすのか引き続き注視していく必要がある。販売面では、業務筋向け・小売向けともに前年同月比でほぼ同水準となったが、物価上昇や消費者の節約志向が続く中、販売面で明るい材料は乏しく、先行きは依然として不透明である。一方、輸出は引き続き伸びている。
	テントシート	原材料の高騰を販売価格へ転嫁ができつつあると思われるなか、6月1日より中東情勢により原油・ナフサ価格の上昇および石油化学製品の供給環境の悪化の影響で、全製品の大幅な価格改定(15%~25%)があり、品薄状態も続きそうである。販売価格への転換に厳しい状況がまだまだ続くと思われる。
	木製品素材生産	8月期の原木出荷量はお盆休みもあり多少減少している。丸太価格については、先月頃より一部で下げ止まり状態となっているが全体的には横ばいで推移。9月に入り、これからある差も和らぎ原木出荷量は増加してくると思われるが、今後の台風の影響が心配されるところ。丸太価格については、製品の動きが依然として鈍い中、例年、秋の需要に向け良くなってくると期待されるが、なかなか先行きが見えない状況。
	建具	建具材料代の高値止まりの原因か、個人住宅・店舗工事に仕事量が少ない。木を使う仕事量も少ない。
	製紙(家庭紙)	紙製品全体として、販売金額、生産量及び販売量は上回った。また、品目別で、雑種紙は、前月に続き前年同月比で販売金額、生産量及び販売量は上回った。衛生用紙は、販売量は上回り、販売金額及び生産量は、ほぼ前年並みとなった。
	製紙(手すき和紙)	原材料の高騰が収まらないが、少しずつ動き始めた矢先の大幅な価格改定があり、販売価格への転嫁に厳しい状況がまだまだ続くと思われる。夏の期間はあまり動かないが、これから人の動きも出てくると思うので期待したい。
	コンクリート製品	対前年同月比146.2%。前年度より出荷量が多くなっている。本年度の公共事業費は横ばいであることから、組合員の増加による影響と分析している。中東情勢が不透明であり今後の資材調達に関して、業界への影響が懸念される。
	刃物製造	先月の出荷待ちとなっていた品が出荷可能となり、先月のマイナス分も取り返し、売上は上がった。ただ、貿易のために提出する書類など細かくなり、煩雑さが出ている。
	機械団地	製造現場においては、若年就業者の減少により労働力不足が進展する中、原材料費や労務費などのコストが上昇し、売上や収益を伸ばせないという声がある。団地内の業況は、概ね横ばいの状況が続いている。
	船舶製造	前年同月の売上が少なかったため、比較すると売上高が増加している。
	珊瑚装飾品製造	8月度の取引額は、前年同月比で68%となり、3カ月連続で前年を下回った。
	卸団地	売上額は前年並みであるが、販売価格上昇の影響を考えると前年より販売数量は減少傾向にある。物価高の影響により、外食は低調である印象である。仕入商品やガソリン等値上げが続くものの、販売価格に十分転嫁できていない。

	青果卸売	8月の取扱高は組合員全体で前年対比114.2%となった。4カ月連続で前年を上回り、売上高は好転したと言える。今年の1月から8月までの累計でも101.2%になったが、収益状況は経費増加などのため額面通りには受け止められない状況。
	生鮮魚介卸売	当月も売上高は減少している。増加になる兆しはない。台風が多く発生しているので入荷量が安定しない。カツオに期待している。
	各種小売(四万十町)	8月の町内の景気動向は目立った話はなかったように思う。方々で自然災害が起きているが、町内は雨が少ない程度に収まっているので特段被害があったという話もない。熱膨張した端末機の修理に殊の外、費用がかかる。しばてんカードが使用している端末機は生産がすでに終了しており、現行機は次のバージョンに移行しているとのこと。端末機すべてを新機種に入れ替える体力はないため、今後の対応についての協議を行わなければならない。
	中古自動車小売	高年式車両の販売や注文件数が伸びているが、相場が徐々に上がり始めており仕入れが厳しくなると思われる。
	商店街(高知市)	人流カメラによる集計では、8月の来街者数は前年同月比4.2%増となり、5地点中4地点で前年同月を上回った。第73回よさこい祭り期間(9日~12日)は人流が大きく増加し、5地点合計で1,008,887人、前年同期比4.3%増となった。特に大橋通り商店街は7.7%増、帯屋町壱番街商店街は7.0%増と伸びが目立ち、祭り来場者の回遊が商店街全体の人流を押し上げたと考えられる。また、8月19日や22日のクルーズ船寄港日にも複数地点で人流の増加が見られ、観光客の街なか回遊も来街者数の増加を後押ししたことがうかがえる。
	旅行業	組合クーポン前年同月対比:42%、全旅クーポン合算後前年同月対比:80%。
	IT事業	今月の売上は前月よりも下がり、例年と比較すると低い状態が続いている。例年この時期は需要が落ち着く傾向があるが、入札参加や新規開拓で受注増加を狙いながら、組合員同士の交流促進の取り組みを継続し、増収を目指す。
	一般土木建築工事	例年8月は発注数が少なくなることに伴い、完工高が減少している。
	電気工事	組合員の施行する電力引込線工事量は、前年同月比108%となった。各地区で増減があったものの、全体としては前年同様となった。
	タクシー	実働1日1車当りの前年同月対比運送収入:105.4%、回数:107.4%、実働率:51.1%。この夏は厳しい暑さでタクシーの需要も伸びたと言っているが、運転者が充分であればと残念がっている。ライドシェア(自家用車活用事業)をやってみようとする者もなく残念だ。

	製材	国産材の荷動きが鈍い状況が続いている。
	印刷	久しぶりに売上、操業度共昨年同等。県内需要は相変わらず厳しいが、県外需要が好調に推移。押し並べて昨年並みを確保した。
	生コンクリート製造	8月度半月の組合員工場の出荷量は対前年比 97.4%で、4月からの累計出荷量は88.2%で、前月と概ね横ばい傾向であった。地域的には、中部、高幡、幡多地区の減少傾向が続いている。
	ガソリンスタンド	ホルムズ海峡を巡り米国とイランが再び交戦が激化となるが、政府は激変緩和措置でレギュラーガソリン全国平均価格を今まで通り170円程度に抑制することを決定した。これにより、市況価格の大幅な変動は当たらないと思われるが、7月末の2週間では元売り仕切り価格は15.5円の上昇があり、8月末の国の補助金合計は全油種32.5円/1Lまで跳ね上がっている。今後の中東情勢によりまだ増える可能性はある。また、たとえ原油価格が下がっても、この補助金が0になるまではガソリン価格は下がらないことになる。
	商店街(安芸市)	8月1日(土)・2日(日)に「安芸納涼市民祭」が開催された。1日目には市内一円でよさこいチームなどによる「踊りのパレード」が行われ、商店街もパレードで賑わった。これに合わせて、当組合主催の「ピアガーデン」を実施し、多くのお客さまにご来場いただいた。売上の一部は10月25日(日)開催の第19回全国「商い甲子園」大会の運営資金に充てられる。
	商店街(四万十市)	8月1日に一条通納涼祭を行い、清水で花火、東下町も納涼祭と重なっていたが、例年通り大勢の人が来てくれ、賑やかな納涼祭が行われた。また、片付けの際にはお客さんもイスや机を運んでくれ、本当にありがたかった。人と人とのつながり、商店街の良さを感じた。全体の売上について、値上げが相次ぎ厳しい状況となっている。
	旅館・ホテル	前年に比べてやや低調。秋の行楽シーズンの受注状況は順調。
	飲食店	8月は、よさこい祭りやお盆も重なったうえ天候にも恵まれ、月前半は客数も多く好調であったが、後半は台風報道によるイベント等の自粛に伴い客数が減少し苦戦した。月全体の売上は前年度比微増であったものの、販売価格の上昇による影響も大きい。光熱費・仕入れ価格・人件費すべての経費が上昇し続けているが、顧客離れによる集客の低下の懸念から業界の価格転嫁は十分ではない。
	クリーニング	中東情勢の緊張は続いており、原油由来のエネルギー、資材価格は上昇している。また資材の中で、しみ抜き用の特殊な溶剤などは供給中止が続いているものがある。物価高騰の影響が顧客の節約志向も続いており、一般衣料のクリーニング需要は減少している。価格改定は顧客離れの懸念から個人店では進まず、チェーン店では改定に踏み込まざるを得ないところもある。リネン関連は好調が続いている。
	一般貨物自動車運送	お盆休みが長かったこともあり、稼働率は低調となった。燃料価格は補助金の増額によって若干の下げとはなったが、高止まりしていることには変わりなく、荷動きも回復しない状態で組合員事業者はまだまだ厳しい状態といえる。